http://decfamily.p1.bindsite.jp/2014/

We 35R

No.389　14/07/04

漢字の偉力

水曜日の放課後は体育祭に向けての練習がしっかり？できたようで何よりである。いくら練習しても、今更足が速くなったり、腕っ節が強くなったりするわけではないだろうが、バトンを渡し・受け取るタイミングがよくなったり、載っている人と騎馬との呼吸がシンクロしてきたりして、きっと当日はイイ結果に結びつくに違いない。ケガのないようにして、２つ目の行事も楽しもう。

＊

ところで、昨日・今日は中学生向けの特別授業を担当している。昨日は●●中学校の生徒さん、今日は●●中学校の生徒さん相手に国語の授業をするのだが、例えば３月なら「高校の授業入門」のようなことをやってもイイが、なにせこの時期なので、いかに漢字学習が大切かということを理解してもらう授業を行うことにした。題材に使うのは、鈴木孝夫『日本語と外国語』（岩波新書、1990）という本。なかなか面白い本なので、興味のある人は手に取ってみるといいだろう。

この本の中に「英語の高級語彙」と、それに対応する「日本語の高級語彙」が一覧になって掲載されている。しかも、日本語の方はローマ字表記になっているので、それを使って、そのローマ字表記を漢字に直してもらうという作業を中３生にしてもらうのである。単純な作業だが、中学生諸君、かなり真剣に取り組んでくれる。君たちにもちょっと例を示してみよう。左側が英語の高級語彙、そして、右側がその日本語訳のローマ字表記である。さあ高３生諸君、漢字に直せるかな？

○leukemia　→「hakketsubyou」
○lactobacillus　→「nyuusankin」

これらは簡単で、上が「白血病」、下は「乳酸菌」である。乳酸菌のところでは「英語を見るとラクト～となっているけど、ラクト・アイスクリームって聞いたことがあるよね」みたいな感じで授業を進めていく。ところが、

○apivorous　→「housyokusei」
○limnology　→「kosyougaku」
○pachyderm　→「kouhijyu」

となると、ちょっと頭を抱えてしまうのではないだろうか。「ほうしょくせい」は「宝飾性」「飽食性」「奉職性」…。「こしょうがく」は「故障学」「呼称学」「胡椒学」「古称学」など、「こうひじゅう」に至っては、逆に何のことか浮かばない…といったところか。もちろん、中学生諸君も頭を抱えてしまうわけだが、ここでグループワークを取り入れて考えさせると、それなりに面白いアイディアが発表されたりして結構盛り上がるのである。

さて、上の答えだが、「蜂食性」「湖沼学」「厚皮獣」が正解。なるほど日常ではあまり使わない「高級語彙」であることが分かる。英語話者にとっても「apivorous」「limnology」「pachyderm」は難しく、たとえ大学生であっても知らない人の方がほとんどだそうだ。

一方、日本語の方はどうだろう。確かに見かけない単語だが、漢字にした段階でその表す意味は何となく想像できるようになるのではないか。つまり、どんなに難しそうな語であっても、漢字を使うとその意味が圧倒的に理解しやすくなるのである。

これが漢字の偉力、「訓読み」のパワーなのである。確かに漢字の習得は大変だ。しかし、その応用範囲は計り知れないのである。